

# 地域ニュースの需要 ーオンラインの人気ランキング分析から

宮 原 淳

## Demand for Regional News - Analysis on Trending Online News

Atsushi MIYAHARA

### 1. はじめに

東京一極集中をめぐる議論が繰り返されているが、メディア業界でも全国紙や民放キー局など東京発の情報への偏りを脱し、地方発の視点を充実させる必要性が論じられてきた<sup>1</sup>。一方で、従来、対象エリア内でしかアクセスできなかった地方紙<sup>2</sup>やローカル局は、今や世界のどこからでもアクセスできるデジタル環境で新たな可能性にも直面している。日本のオンラインニュースの代表格である「Yahoo! ニュース」では、「国際」「スポーツ」「エンタメ」など8つある記事ジャンルのうちの一つとして「地域」カテゴリーがあり、地方紙やローカル局発の記事が並ぶ<sup>3</sup>。このようなデジタル化の進展に伴い、地方紙は①デジタル化への対応、②ソーシャルメディアの理解と対応に迫られてきた（佐藤、2010:51）。

本論は、地方発のニュースがインターネット上でどのように読まれているかという受け手の需要を明らかにするため、Yahoo! ニュースの「地域」カテゴリーにおける「アクセスランキング」<sup>4</sup>を分析する。

報道各社の記事が読み比べられ、リアルタイムで表示される人気ランキングは、紙媒体だけの時代では想定できなかった。ところが、Adornato（2017）は今や人気ランキングこそが「ニュースの価値を決めている」と主張する。ジャーナリズムの伝統的概念であるゲートキーパー理論では、ニュースの価値判断は報道機関が決め、つまり、独占的に担っていることを前提にしているが、Adornato は、ゲートの鍵は今や能動的なオーディエンスが握っているという。これは、ジャーナリストとオーディエンスの関係が変化していることを意味する。一方通行のマスコミュニケーションという伝統的モデルは今や双方向へ、Adornato の例えでは、講義（lecture）から対話（conversation）へ変化してきた。オーディエンスは、受動的から能動的になってきている。Adornato は、テレビの報道機関幹部らに対する調査で、報道するかどうかの選択基準は SNS な

どにおける記事の人気ランキングが重要な要素になっている現状を浮き彫りにした。反響があるニュースはより報道されるようになり、反響のないニュースは報道されなくなるという価値判断である。

このような人気ランキングがジャーナリズムに及ぼす影響について、オーディエンスが受け取るニュースに偏りが生じる危険を指摘したのは Chakraborty et al.(2015) である。報道機関の自社サイトがニュースをどのような順番で表示するかという問題は、閲覧読者に影響を与えている。例えば、速報性を強調すれば、ユーザーは速報ではない他のニュースに気づきにくくなり、サイトのレイアウト自体が情報のフィルター効果を持つようになる。

これらと同様の人気ランキングに関する調査は日本の報道機関を対象にしたものでは見当たらない。本論は、人気ランキングがニュースの価値に影響すると指摘した上述の先行研究を踏まえた分析を行う。

## 2. 先行研究－地方紙・地方局によるニュースの価値

地方紙・地方局によるニュースは、どのような強みを持っているのか。清水（2010:184）は、地方紙の取材が有効に発揮されるのは地域に根ざした情報であり、そのブランド力が生かされるのは、存立する地域にあると言う。地域に根ざした報道について、四方（2015:218）は「大きなメディアに比べても、ネットに比べても独自の情報を扱っている」と指摘する。

この「独自」性こそ、ニュースの価値を論じるキーワードになってきた（地方紙・地方局に限らず全般に）。Stephens (2014) は従来のニュース価値について、「出来事について入念に集めただけの事実はその価値の大部分を失った」と評して、今後は、独占（exclusive）や調査報道（investigative）をこれまで以上に強調した報道 wisdom journalism を提唱している。つまり、単純な事実だけの報道に終始する記者は、現場にいる市民やより深い知識を持つ専門家に太刀打ちできない。記者が事実を真っ先に知るという特権はもはやない。さらに、誰もが発信できるデジタル環境に情報が溢れている。ゆえにジャーナリストはありふれていないもの、チープでないものを提供しなければならない。それこそが、独占コンテンツである。また、Stephens の主張を要約すると、独占コンテンツを提供していくためには決して新しい取材手法を要するわけではなく、これまでのジャーナリズムで培ってきた現場主義、そして信頼できる記者へのタレコミ、記録を掘り起こして広げた情報源が重要であるとする。

日本の地方紙や地方局の文脈では、現場主義に基づく報道は特に強みを発揮することができるニュースである。深澤（2016）は地方局によるローカルニュースの内容分析を行い、事件や事故、火事、災害のニュースなど「社会」カテゴリーのトピックが最も多かったことを明らかにした。放送での社会ニュースは映像を取り扱うために必然的に現場に行くことが求められている。また経済ニュースについても、「キー局が扱うマクロな視点というよりも、農業、漁業などその土地ならではの産業の現在の姿を丹念に掘り起こして住民の息づかいが聞こえるニュースを目指していた」と、現場主義に基づいた報道であると指摘している（深澤、2016:145）。

山腰（2006:206）は熊本日日新聞の記者へのヒアリング調査を行い、記者の意識として、「顔の見える議論」「細部の描写」に基づいたニュース・ストーリーを構成しているという自負があるこ

とを指摘した。これも、地方紙の現場主義をあらわす一例である。

先行研究を概観すると、地方紙・地方局によるニュースは、事件事故の報道や「細部の描写」などにあらわれる現場主義にこそ独占価値があるといえる。しかし、これが、実際にオーディエンスに必要とされているのかどうかはまた別問題である。Adornato が指摘するように、もはやオーディエンスはただ受け身でニュースを受信するのではなく、オンラインでは積極的に記事を選んでいく。そこで本論の目的である需要についての分析を行うことにする。

### 3. 方法

分析する記事は合計のべ 1000 本である。内訳は、Yahoo! ニュースのアクセスランキングで「地域」カテゴリー上位 20 位に入ったのべ 500 本と、同時期のアクセスランキング「総合」カテゴリー（記事ジャンルを問わない全記事）の上位 20 位に入ったのべ 500 本である。連続する 25 日間のランキングを使用した<sup>5</sup>。また、時間帯による差が出ないように配慮し、正午から 3 時間以内のデータを使用した<sup>6</sup>。

これらのデータを分析・比較するにあたっては「計量テキスト分析」を用い、フリーソフトウェア「KH Coder」（樋口、2014）を活用する。これは内容分析（content analysis）の考え方を基盤にしつつ、自然言語処理のような近年の情報処理技術の進歩を取り入れた方法である（樋口、2011:3）。この方法を用いて探索的に分析を進めつつ記事中に多く出現する主題や用語を明らかにして、どのような記事が人気を集めたかという観点から、「地域」と「総合」のランキングを比較する。

「KH Coder」は、メディア学領域で既に様々な分析で成果を上げており、例えばインターネット掲示板の記述を分析した山本（2011）や日・米・英の新聞報道を比較した斎藤（2015）などがある。本論では樋口（2011）の内容分析の手法と同様に、頻出語を取り出し、クラスター分析によって似通った文脈で使われていた語のグループを見出すことで、どのような内容の記事が多かったのかという探索を試みた。その後、クラスターを参考にしてコーディングルールを作成し、与えられたコーディングルールに沿って自動的にコードを付与するという KH Coder のコーディング機能を用いてさらに記事を分類し、「地域」と「総合」の比較を行った。

## 4. 結果

### 4.1 データ概要

分析対象の記事のべ 1000 本を、複数日にまたがってランキングに登場して重複した記事を取り除くと、「地域」が 385 本、「総合」が 482 本であった。この相違は「総合」ランキングではより多くの記事が登場して記事の入れ替わりがより速く、逆に「地域」では複数日に渡ってランキング入りを続けることが比較的多いことを示唆する。

分析の最初の段階として、「地域」ランキング入りした記事の主題を探る。65 回以上データに出現した頻出 75 語を取り出してクラスター分析を行い、表 4.1 に示すように、9 つのクラスターを得た。

各クラスターの解釈をしておくと、クラスター1は、最大震度7を記録した北海道胆振東部地震関連ニュースである。クラスター2は、神戸市の事件事故である。これらの記事には「写真」が表示されることが多かった。なお、「神戸」と「写真」が同時に出現した記事は19本だった。クラスター3は、記録的な大型台風22号である。クラスター4は、強制わいせつなどの逮捕で、特に公務員の事案等と関連して「職員」という語が登場している。クラスター5はクラスター4と類似しているが、女性をターゲットにしたストーカー事案等、クラスター6は、歌手安室奈美恵の引退で、特に出身地である沖縄の地元紙の報道があった。クラスター7は、幅広いトピックを含むが、犯罪や地震、台風の被害の様子を細かく報じるものなどがあった。なお、クラスター3も台風関連ではあるが、このクラスターではより社会的な影響についての記事である。最後に、クラスター8は、警察が扱う事件、クラスター9は、交通事故が主であった。以上のクラスターは記事のトピックを明確に捉えるには不明瞭な点が残るため、さらに後述の分析を行う。

「総合」についても同様にクラスター分析を行い、135回以上データに出現した頻出75語を取り出し、表4.2の通り、9のクラスターを得た。それぞれのクラスターの解釈は、特筆すべき点として、2点をあげておきたい。第一に、クラスター1とクラスター4を除くと、事件、事故、災害に関連するクラスターが見当たらない。第二に、「地域」カテゴリーにはなかったテニスの全米オープン、女子体操の宮川紗江選手とコーチの問題、メジャーリーグの大谷翔平選手など3つのクラスターはスポーツニュースであった。

「地域」ランキングに登場した記事のうち、「総合」でもランキング入りしたのは、表4.3で示す16本だった。これは「地域」に登場した全記事の4.2%にとどまっていることになり、地域ニュースのインパクトが「総合」ランキングでは小さいことを示唆している。

表 4.1 「地域」ランキングに頻出した語のクラスター分析

クラスター1	クラスター4	クラスター7	大阪	クラスター8	クラスター9
発生	行為	自分	影響	県警	警察
地震	違反	子ども	可能	同署	事件
停電	職員	一	県内	認める	逃走
クラスター2	処分	入る	県	男	乗用車
写真	クラスター5	見る	関係	疑い	事故
神戸	市	思う	分かる	容疑	運転
兵庫	自宅	人	出る	逮捕	確認
クラスター3	近く	前	被害		病院
現在	道路	話す	受ける		死亡
強い	学校	求める			調べる
中心	新聞	声			午後
台風	女子	多い			男性
最大	生徒	客			女性
	クラスター6	市内			現場
	安室	言う			車
	沖縄	電話			会社
					午前

表 4.2 「総合」ランキングに頻出した語のクラスター分析

クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター5	クラスター7	クラスター9
女性	声	世界	新聞	ゲーム	監督
男性	感じる	行う	総合	大会	五輪
車	だす	写真	クラスター6	優勝	代表
容疑	考える	日本	子	決勝	大谷
運転	自分	時間	仕事	オープン	出場
	思う	発表	子ども	テニス	選手
	言う	今回	行く	全米	試合
	人	語る	理由	リー（セリーナ）	
	前	問題	必要	大坂	
	見る	受ける	場合	クラスター8	
	使う	関係	会社	協会	
	話	話す	東京	体操	
	聞く	クラスター4	ー	宮川	
	持つ	台風		女子	
	入る	強い		コーチ	
	今	大きい			
	出る	可能			
	分かる	高い			
	知る				
	多い				

表 4.3 「総合」ランキングに登場した地域ニュース（参考までに記事ジャンルを付した）

「翁長雄志は命がけでした」 妻樹子さんが語る壮絶な最期	訃報
台風21号 JR西日本が9月4日午前10時には運転見合わせ	災害
傾いた家の前でピースサイン 胆振東部地震で被害の札幌・清田 やじ馬後絶たず	災害
他人のバイクからガソリン抜き取り、バシて殴打 高1男子ら逮捕	警察
支給品を私物化 消防局職員2人を懲戒免職 1人は自殺	警察
沖縄の暴走族が激減したワケとは？ 単車よりスマホ？	警察
岡山・中国道で事故 2児死亡 自損で停車のワゴンに後続車衝突	警察
パトカー追跡の車が田んぼに転落 男性（44）が重傷 愛知・豊橋市	警察
18歳女性、朝目覚めたら見知らぬ中年男にまたがれていた	警察
<トレーラー横転3人死亡>下敷き軽乗用車、無残... 事故直後は「2人応答」 救出難航、震える住民	警察
「川から人の足」溺れた4歳女児を男性が救助 姫路	警察
体長2・3mの巨大ハモ あまりの大きさに仲買人騒然	他
耳はちぎれ声帯も.....傷だらけの保護犬がくれた「奇跡の出会い」 人間が動物の運命に責任を持つということ	他
お母さんの病気が“がん” 小学6年生の娘が夏休みの自由研究	他
COACH...じゃなくて「高知の財布」注文殺到 フリースクールで才能開花したデザイナーが伝えたいこと	他
【特集】仕事に家事に育児に 奮闘する2児のシングルファーザーに密着	他

図 4.1 「地域」ランキングと「総合」ランキングのトピック別比較（横軸の数字は、コーディングした次のトピックを示す。1：警察、2：災害、3：安室、4：テニス、5：体操女子）

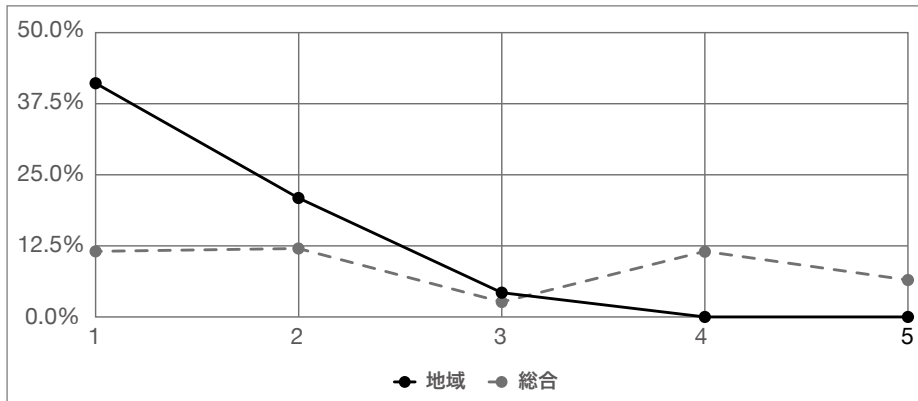
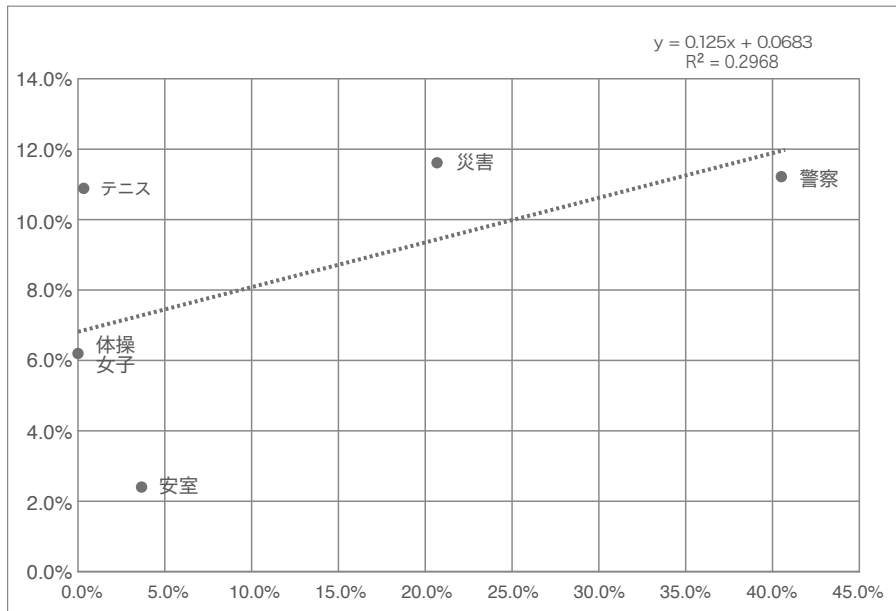


図 4.2 「地域」ランキング（横軸）と「総合」ランキングの散布図



#### 4.2 コーディング

トピックをさらに浮き彫りにし、比較することを試みるため、コーディングを行う。上述のクラスターでは、台風 22 号関連のニュースなど、複数のクラスターにまたがって登場するトピックがあった。そこで、クラスター分析の結果を参考にして、次のようにコーディングルールを設定した。これにより、ランク入りした記事のうち、事件事故を扱う記事の割合、災害を扱う記事の割合、さらにテニス関連記事、体操女子問題関連記事の割合がわかる。

(1) 「警察」トピック。「県警」、「警察」、「同署」のいずれかを含む。事件、事故の両面から捜査

される事案もあるため、トピックを捉える際に事件と事故の区別をなくした。

- (2) 「災害」トピック。「台風」、「豪雨」、「地震」のいずれかを含む。例えば、北海道胆振東部地震は、台風による豪雨の影響もあるため、これらのトピックをまとめて一つとした。
- (3) 「テニス」トピック。「大坂」または「錦織」を含む。テニスの記事は他のキーワードもあるが、総合ランキングではこの両者のどちらかが必ず含まれていたため、合算して「テニス」とした。
- (4) 「体操女子」トピック。「宮川」と「体操」を同時に含む。

この結果を図 4.1 で示す。「総合」と「地域」それぞれのランキングに出現したトピックの割合を比較したものである。比較したトピックは計 5 つで、コーディングした上記 4 つのトピックに加え、クラスター分析で両者ともに登場した安室奈美恵引退（キーワードが複数あるわけではないので特にコーディングは必要なかった）を比較対象として取り上げた。

この分析からは、警察が扱う事件事故の報道は「地域」がランキング入りした全記事中の 40.5% で圧倒的に多い反面、「総合」では 11.2% にとどまり、両者の違いが明確にあらわれた。

さらに両者の相関について、横軸に地域ランキング、縦軸に総合ランキングを取り、散布図にして分析したものが図 4.2 である。相関係数 R 二乗値が 0.2968 であり、また図内の回帰直線からも二つのランキングに明確な相関関係を見出すことはできない。つまり、「地域」と「総合」ではランキング上位に出現する記事トピックは概して異なるものであると言える。

## 5. 議論

以上の分析は、期間的に限定的であり、全体像をつかむ本論の試み以上に記事一本一本の内容分析も必要であるが、見いだすことのできた「地域」ランキングの特徴を挙げておきたい。第一に、事件事故をはじめとする現場主義に基づく地域ニュースはランキングで最大の割合を占めたように、インターネット上の読者にも需要があることが見出せた。調査期間で記録的な台風と震度 7 の地震という特に大きな災害があったが、ランキング登場頻度では事件事故が災害を上回った。「地域」での警察事案は、全国紙や雑誌などが競い合って報道して「総合」でもアクセスを稼ぐような大きなニュース（例えば連続殺人のような事件、犠牲者が数多いような大事故などが想定できる）ではなく、交通事故やわいせつ事件などオーディエンスの生活により身近な事案であった。生活に近い報道が必要とされていると推察することができる。つまり、先行研究で概観した通り、事件事故等の現場主義に基づく記事こそ地方紙やローカル局にとってのニュースの強みであるという視座は、オンライン読者側にとってもコンテンツを実際を選択して読むと言う形でランキングに現れており、共有されていると言えるのではないだろうか。

また、身近に起こり得る犯罪の報道は、ある地域にだけ起こる特有な事案ではなく、全国どこでも起きうるような事案でもある。そのため、地方紙、地方局エリア外からのアクセスも稼いで「地域ランキング」上位に入っていたことが想像される。この点についても、さらに一つ一つの記事に迫る詳しい質的調査が必要であり、今後の課題としておきたい。

第二に、「地域」で警察関連について多かったのは災害関連のニュースである。「総合ランキング」

入り記事の 11.6% を占めたが、「地域」では 20.7% にのぼった。災害の発生日以降、「総合」においては全国的な注目を集めなくなったような続報も「地域」ではアクセスを集めていた。例えば、2018 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震は、5 日後の「総合」ですでに圏外だったが、「地域」では 2 週間経った同月 20 日においても地元・北海道新聞による記事が 1 位になっている。被害や復旧状況等、生活に密着した情報である災害の続報についてもさらに各記事の詳細な質的調査が必要だが、「地域」では災害の続報がより多くアクセスされていることは本論の分析で例証できたのではないだろうか。

第三に、「地域」のニュースが「地域」カテゴリだけの注目にとどまり、「総合」でインパクトを与えることが少ないという点が明らかになった。記事のトピックで両ランキングの相関性があるとは言えず、「総合」では、特定の話題（テニスや体操女子）にアクセスが集中しやすく、ランキングの記事の入れ替わりが比較的速いなどの特徴があり、地方発のニュースが抜け落ちているのが現状である。

地方から東京、全国へという情報の流れ（全国紙やキー局などによって東京発の情報が全国に届けられるベクトルとは逆の流れ）を地方紙が担うことは、過去に際立った事例がある。例えば、1999 年富山県の北日本新聞によるスクープがある。統一地方選を前に同県利賀村のヤミ基金を明らかにして地方自治のあり方の議論につながった。当時、記者であった梅本は「取材の出発点は利賀村が変われば、富山県が変わる、地方が変わる、日本の政治を少しでも変えたいという願いがあった」という（梅本、2015:112）。一つの地域の問題が、他の地域でもあり、国全体の問題につながるという事例である。

デジタル環境で読者の範囲が絞られない現状にあっては、地方発のニュースがどのように全国的な影響を与えていけるのか。伝統的に積み重ねてきた現場主義の強みを活かしつつ、他地域に波及するようなニュースを開拓することは、発行部数減やデジタル環境による変化などで危機が叫ばれて久しい地方紙や地方局にとって、新たなオーディエンスを獲得する手段の一つとして可能性があるのではないだろうか。この点は本論では十分カバーできなかった視座であり、今後の研究課題としておきたい。

## 注

- 1 例えば、曾我部真裕「地域面にもっとジャーナリズムを」『毎日新聞』2017 年 7 月 27 日、「地方取材の意義、市民と記者討論」『毎日新聞』2016 年 12 月 4 日など。
- 2 四方（2015:212）は、県庁所在地に本社のある県紙を「地方紙」、それ以外を一つの圏域をカバーする「地域紙」と呼称を区別しているが、本論では引用箇所を除いて「地域紙」という用語を使わず、「地方紙」という表現のなかに「地域紙」を含んでおく。
- 3 調査期間中、Yahoo! ニュースにおいて「地域」カテゴリには 122 社がニュースを配信していた。うち、注 2 で述べた「地域紙」（「伊豆新聞」「苫小牧民報」など）と「地方紙」（「岐阜新聞」「京都新聞」など）は混在している。なお、地域版（配達エリアが限定されている）の記事をこのカテゴリで配信している全国紙（「毎日新聞」など）も含まれる。

<<https://headlines.yahoo.co.jp/docs/copyright.html>>

- 4 Yahoo! ニュース アクセスランキング  
<[https:// https://news.yahoo.co.jp/ranking/access?ty=tw](https://news.yahoo.co.jp/ranking/access?ty=tw)>
- 5 複数日にまたがってランキングに入った記事もあるため、「のべ」500本としている。  
2018年8月29日から同年9月22日まで
- 6 Chakraborty et al.(2015) は、時間帯によってアクセスされる記事の傾向が変化することを指摘している。  
例えば、プロ野球の時間帯、株式市場の時間帯などが影響を与える要素として考えられる。

## 引用参考文献

- Adornato, A. (2017). *Mobile and Social Media Journalism: A Practical Guide*. CQ Press.
- Chakraborty, A., Ghosh, S., Ganguly, N., & Gummadi, K. P. (2015). Can Trending News Stories Create Coverage Bias ? On the Impact of High Content Churn in Online News Media. *Computation and Journalism Symposium*.  
Retrieved from <http://cj2015.brown.columbia.edu/papers/trending-news.pdf>
- Stephens, M. (2014). *Beyond news: The future of journalism*. Columbia University Press.
- 梅本清一 (2015) 『地方紙は地域をつくる: 住民のためのジャーナリズム』 七つ森書館
- 斎藤さやか (2015) 「気候変動問題におけるマス・メディアの役割 — 日・米・英における新聞報道の比較内容分析」 明治大学大学院政治経済学研究科2015年度博士学位請求論文
- 佐藤和文 (2010) 「地方紙・地域紙の思想と行動」 早稲田大学メディア文化研究所編 『メディアの地域貢献』 一藝社
- 四方洋 (2015) 『新聞のある町—地域ジャーナリズムの研究』 清水弘文堂書房
- 清水真 (2010) 「新聞社とインターネット展開」 早稲田大学メディア文化研究所編 『メディアの地域貢献』 一藝社
- 畑仲哲雄 (2014) 『地域ジャーナリズム: コミュニティとメディアを結びなおす』 勁草書房
- 樋口耕一 (2004) 「テキスト型データの計量的分析」 『理論と方法』 19(1), 101-115.
- 樋口耕一 (2004) 「計算機による新聞記事の計量的分析」 『理論と方法』 19(2), 161-176.
- 樋口耕一 (2011) 「現代における全国紙の内容分析の有効性」 『行動計量学』 38(1), 1-12.
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析』 ナカニシヤ出版
- 深澤弘樹 (2016) 「内容分析からみるローカルニュースの現状」 『駒澤社会学研究』 (48), 123-149.
- 山腰修三 (2006) 「地方紙と地域問題: 熊本日日新聞社のヒアリング調査を事例として」 『メディア・コミュニケーション: 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』  
No.56 (2006. 3) ,p.199- 210.
- 山本明 (2011) 「インターネット掲示板においてテレビ番組はどのように語られるのか」 『マス・コミュニケーション研究』 78, 149-167.

※本稿は、平成29年度本学研究助成を受けての発表である。

